

平成 2 1 年度 実施事業	事務事業名 鉾山地域住民タクシー経費
-------------------	---------------------------

区分	番号	名 称
章	4	調和の中でふるさとを演出するまち
節	3	道路交通網の整ったまちをつくる
施策	1	総合的な交通網の整備
小分類	2	交通手段の確保
主要な施策	1	人にやさしい交通手段の確保
事務事業番号	002	事務事業コード 43121002 事業開始年度 平成 9 年度 事業終了年度 平成 - 年度

会計種別	一般会計	予算書上の事務事業名	鉾山地域福祉タクシー経費
------	------	------------	--------------

部 名	市民生活部	グループ名	市民サービスG
-----	-------	-------	---------

統合前または名称変更前の事業名	
-----------------	--

事務事業の目的と成果

対象	<p style="background-color: #ffffcc;">(何を対象にまたは誰を対象にした事務事業なのかを具体的に記載ください)</p> 鉾山町に居住する住民で、自家用車を保有していない世帯
手段 (事業の内容・活動)	<p style="background-color: #ffffcc;">(目指す姿を実現するためにどのような手法で行うのか、事業の内容を具体的に記載ください)</p> 鉾山地域生活パスの廃止に伴い、地域住民の交通手段を確保するため、登別市ネイチャーセンターからJR幌別駅の区間を対象に、一カ月2往復分のタクシーチケットを交付する。 (年2回上期と下期に分けて交付) 対象世帯 2世帯×4枚/月×12カ月=96枚交付(うち1世帯については長期入院中のため未交付)
目指す姿 (成果)	<p style="background-color: #ffffcc;">(事務事業を実施することでどのような状態にしたいのか具体的に記載ください)</p> 鉾山地域住民の交通の利便を確保するため、利用するタクシー料金の一部を助成し生活の安定を図る。
根拠法令等	<p style="background-color: #ffffcc;">(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載ください)</p> 登別市鉾山地域住民タクシー利用事業実施要綱

指標の推移

区 分		単位	区分	21年度 実績	22年度 目標	23年度 目標	24年度 目標	25年度 目標
成果 指標	使用枚数	枚	目標値	96	96	96	96	96
			実績値	48				
	助成金額	千円	目標値	130	130	130	130	130
			実績値	130				

事業費の推移

区 分			単位	21年度 決算	22年度 当初予算	23年度 見込	24年度 見込	25年度 見込	23～25年度 合計
事業 の 財 源 内 訳	国庫支出金	名称	千円						0
	道支出金	名称	千円						0
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称	千円						0
	一般財源	名称	千円	125	130	130	130	130	390
合 計				125	130	130	130	130	390
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	99	104			
			嘱 託 員	千円	0	0			
			臨時職員	千円	0	0			
			合 計		99	104			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後市が事業 主体として実施 していくことは 妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理 由、妥当では ない理由は何で すか？
生活バスの廃止に伴い、移動手段がなくなった 市民の生活を守る事業であり、市が実施するこ とは妥当である。			
2. 事務事業の成果について			
成果はあがって いますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあ がっている 成果があがらない	→ 成果があがって いる理由、あが らない理由は何 ですか？
鉱山町に居住する自家用車を保有しない住民を 支援することにより、一ヶ月2往復ではあるが 交通手段を確保できており、地域住民の足の確 保につながっている。			
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させ ることはできま すか？	→	大きく向上させるこ とができる 少し向上させるこ とができる 向上させることはで きない	→ どのようにして 向上させます か？ 向上させること ができない理由 は何ですか？
交付した一ヶ月2往復分のタクシーチケットは 全て利用しており、これ以上の向上は難しいと 思われる。			
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさず にコスト（予算 や人工、所要時 間）を削減する ことはできます か？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法 でコストを削減 しますか？ 削減できない理 由は何ですか？
平成19年度より、一ヶ月2往復（平成18年 度は一ヶ月4往復）に要綱を改正していること から、これ以上の削減は難しいと思われる。			

担当グループによる評価

維 持	左記の評価 を選択した 具体的な理 由（根拠）	鉱山地域生活バスの代替措置としての制度であることから、事業の継続が必要である。
-----	----------------------------------	---

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

維 持	備考
-----	----

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力に推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）